

第3回 魚津市の財政を考える市民会議 会議録

○日 時

平成29年8月1日（火）19時00分～20時30分

○場 所

魚津市役所 2階 第1会議室

○配布資料

資料1 平成28年度魚津市の決算状況について

資料2 上水道事業の今後の課題について

○委 員

魚津商工会議所	石川 勝康
北陸税理士会魚津支部	濱多 善克
西田哲也りんご園	西田 哲也
米工房Jasmine	小林 由紀子
公益社団法人新川青年会議所	若林 健嗣
魚津市男女共同参画地域推進員連絡会	木下 理佳
魚津市自治振興会連合会	伊藤 甚宰
社会福祉法人海望福祉会	大崎 雅子
魚津市PTA連合会	浅野 朱実
魚津市副市長	四十万 隆一（座長）
魚津市企画総務部長	川岸 勇一
魚津市財政課長	池村 知明
魚津市総務課長	広田 雅樹

市民 9名（うち2名は所用につき欠席）

職員 4名（うち1名は所用につき欠席）

○会議内容

1 資料説明

各委員へ資料1を簡潔に説明。

2 意見交換

委員 経常収支比率が高いとどんな問題があるのか？

⇒ 経常収支比率が高いと自由に使えるお金が少なく様々な施策を行えない。

委員 平成29年度の経常収支比率の見込は？

⇒ 平成28年度並みと見込んでいる。魚津市は税込だけでなく地方交付税の増減に左右される決算のため、あまり良いとは言えない。

委員 決算を予算対比で分析するとどのような結果か？

⇒ 当初予算は早い段階で見込を立てるので、決算と乖離する事業もある。ただし補正予算でその差を埋めるための増減の調整を行っているが、収入の中には見込みが難しいものもある。例えば、地方消費税交付金などは、平成26年の消費税増税で平成27年度は収入が大幅に増えた。平成28年度も同額程度の収入を見込んだが、消費の動向に左右されるのか大幅に落ち込んだ。

税収は変動する。支出は誠実に見込んでいるが、工事などは入札により差額が出る。昨今は財政状況が厳しいので見込みもシビアである。

委員 下水道の繰出金には、借金の返済や設備の維持管理費だけでなく工事費も含まれているのか？

⇒ 下水道の工事は、国の補助を利用して行っているが、予算で見込んでいた金額よりも国から交付される額が少ない事があり、工事を半分でやめるわけにはいかない。その不足分は繰出金に頼ることになる。

委員 下水道事業は、ほぼ終わっているのでは？

⇒ ほぼ終わっている。残りは一部地域のみ。平成32年に完了を予定しているが、国の補助が要望どおりに交付されないので、少し伸びるかもしれない。

委員 工事が完了すれば負担は減るのか？

⇒ 初期に整備した施設が順番に古くなっていく、浄化センターの修繕等が増えていくため悪循環である。

委員 一軒しか民家がない場合でも、管路の工事をするのか？

⇒ 計画の区域に入っていて今後まとまった数の民家の建設が見込まれれば、管路の工事をしている。まとまった戸数があれば、工事に投資した経費を使用料で徴収できるが、少ない場合は、どうしても繰出金で補填することになる。

自治体によっては、広範囲にわたる場合は、合併浄化槽設置を推奨している場合もあるが、魚津市は計画的に下水道を整備することとしてやってきた。

⇒ 経常収支比率の説明に補足して・・・今回、経常収支比率が上昇した要因は、分母で税収は伸びたが、それ以上に地方消費税交付金、地方交付税等の減により4億5千万円減となっており4ポイント上昇、さらに分子が8千万円増となったため0.8ポイント上昇しており合わせると4ポイント強上がってしまった。

委員 平成29年度の交付金や地方交付税見込みは平成28年度並みか？

⇒ 平成29年度は、地方交付税も臨時財政対策債も現段階では増額となっているので、分母が平成28年度よりは増えるのではと期待している。

交付税に関しては、伸びることはうれしいが、税の増減が一年遅れで反映しており、頼って予算を組むとその増減に影響を受けやすく危険であると痛感している。

なお、市税の見込みについては、税務課に聞き取りしながら把握に努めたいと考えている。

委員 学校の統廃合において、学校跡を公民館として活用しているが、施設管理経費は削減されるのか？

⇒ 今後、分析を進めるが、学校跡を公民館に整備することにより一時的に初期投資はかかる。しかし、学校に関しては統合により、電気・水道等の光熱水費は大きく削減できる。また、公民館は固定経費がかかるものの、学校より使用規模も小さく、長い目で見れば削減効果は期待できる。

委員 埋没林博物館にカフェを整備することだが、入場者増を見込んでのことか？

⇒ 魚津市は、埋没林博物館をはじめ、水族館、米蔵等の施設が海沿いにあり、観光施設として魅力アップを図っていききたい。手始めに国の交付金を活用して埋没林を活性化したい。また、ジオパーク、水循環の拠点となる施設と考えており、カフェだけではなく、海側からの出入口も整備したい。

委員 埋没林博物館の収入が減少している原因は？

⇒ 埋没林博物館を訪れる観光客が減っている。また、市民の方が入館されない。

委員 観光客は全体で減っているのか？

⇒ 新幹線効果もあり観光客の減はない。ただ、埋没林博物館は、バスツアーの団体客が主であり、そのバスツアーが減っている。今後は、カフェの整備をはじめ職員の企画事業で盛り上げていきたい。蜃気楼もからめて盛り上げて、集客を図りたい。

委員 県外で魚津の名称を出すと、文化度の高い方ほど埋没林博物館に来館されたことがあると言われるので、とてもいい素材であると思う。ちなみに水族館の来館者は減っているのか？

⇒ 当初から比べれば減っているが、ほぼ横ばいである。今年、うおすいファミリーウムを整備するなどして魅力アップを図っている。

委員 蜃気楼の拠点はキャッチとしていい。バスツアー客を取り込めるようなソフト事業の充実やコーディネイトが必要だと思う。また、米蔵に観光に来てもお茶を飲める場所がないと旅行会社の方から聞いたことがあるので、期待できるのでは。

生活保護の医療扶助の減は、何か対策の効果か？

⇒ 医療扶助は受給者の病状で左右される。症状が良ければ大きな医療費はかからない。例えば透析の必要な方がいれば受給者数が増えてなくても医療扶助は増加することもある。

生活保護費の半分は、医療費が占めているので、ジェネリック薬品の使用を推奨するなど努力している。

委員 生活保護の自立支援のお手伝いをしているが、受給者が就労することで、働きがい、生きがい生まれ元気になって医療にかからないように感じる。多くの企業にも協力いただければ、より一層健全な医療費の削減に繋がるのではと思う。また、介護予防の事業効果による減額は、どのような予防対策を行ったのか？

⇒ 介護サービスを受ける人は増えているが、支援の段階の人が増えており、重度の介護サービスを受ける方は緩やかに減少している。支援段階での予防やデイケアに通うなど施設の協力のおかげで支援の状態に留まっていると思われる。

魚津市は、介護に限らず健康センターで予防事業に取り組んでいる。

委員 ゴみの収集運搬について、この経費には一般の収集だけでなくリサイクルの収集も含まれているのか？環境にやさしいのでリサイクルに努めているが、それによって経費削減に繋がっているのか？

⇒ ゴミに関する全般の経費である。もちろんリサイクルにも経費がそれなりにかかっている。例えば、際限なくプラスチックゴミが増えると、ゴミを処理する新川広域圏の経費が増えることになる。その結果、一部事務組合への負担金が増えるのでリサイクルに協力いただきたい。

3 資料説明

各委員へ資料2を簡潔に説明。

4 意見交換

委員 魚津市に水道加入金はあるのか？

⇒ 県内では、加入金のある自治体とない自治体は半々である。魚津市はいままで加入金を持っていない。加入金を徴収すると例えば、一軒の家のために水道管を布設しなければならない。現在、自己負担で布設してもらっている。

委員 個人で布設した場合の維持管理は？

⇒ 維持管理は、市が引き受けている。

委員 借入金利息は下げることができないのか？

⇒ 借入金は30年ほどかけて償還しているので、昔に借りたものは利息が高く5%を超えている。平成20年頃に利息の高いものは借り換えしている。しかし、借り換えは要件が厳しく難しい。

委員 現在、水道事業は5億円くらいの事業規模ですか？

⇒ 事業規模ではなく、使える財源が5億円ほどあることを資料にまとめている。

委員 水道事業の収入は？

⇒ 収益が減ると見込んでいる。

委員 借入金残高はどれくらい？

⇒ 平成28年度末で42億9千万円です。

委員 年間の収入の10倍の残高ですね？

⇒ はい。

委員 水道事業は、各自治体の単独事業だが、例えば一部の事業を他の自治体と共有とかできないのか？広域化は難しいのか？

⇒ 水源の問題等も色々あるが、現在、国は広域化を推奨している。新潟県や長野県のように小さな村が多い地域は、広域化しないと経営が難しい。富山県は自治体の数も少ない。まして、魚津市は片貝川と早月川にはさまれており、いきなり広域化は難しいが、事業の一部でも広域化できないか話し合いを進めている。

委員 メンテナンスの広域化か？

⇒ 簡単なところで、薬品の共同購入からでも始めることができないか検討している。

委員 人口減少が進み、例えばコンパクトシティ化を実施した場合の経費削減額はどれくらいか？

⇒ 例えば除雪に関しては、最低限の市道の除雪を行うなど削減も可能であると思われるが、水道や下水道等のライフラインは、一軒しか家がないからやらないとはできない。人権的に問題である。

委員 下水道のかわりに合併浄化槽で対応しては？

⇒ 今後、人口の少ない地区で下水管の老朽化や災害で破損した場合は、合併浄化槽という選択肢も出てくると思う。

農業集落排水では、それぞれの地区の浄化センターを維持管理しているが、公共下水道と接続して、浄化センターの数を減らすなど経費節減のための計画の見直しや工夫もしている。

委員 水道料金の値上げは困る

⇒ 魚津市は呉西地区の自治体から見ると水道料金は安いですが、両隣の黒部市・滑川市と比べると高いので、値上げには抵抗を感じると思う。

委員 両隣の黒部市・滑川市と比べて料金が低いのはなぜ？

⇒ 水源からの管路延長が長く、地形に高低差があり施設整備費用が高ついている。また、個人も企業も井戸を使用している場合が多い。

委員 簡易水道も老朽化が進んでいる。今後、組合での維持管理は難しくなる。

⇒ 簡易水道を上水道に統合するよう国から指導を受けている。ただ、料金体系が違うので、今後は、地元組合と統合に向け相談していくことになる。

委員 魚津のうまい水はモンドセレクションの金賞を受賞したが、科学的に証明できているのか？

⇒ 富山大学の張教授に分析してもらっており、科学的に証明できるデータがある。

委員 経常収支比率の改善が進まないのは、何が足枷になっているのか？

⇒ 平成27年度決算では、経常収支比率は魚津市より富山市が高い。しかし、富山市と比べて魚津市は、臨時的な事業を行うための貯金である財政調整基金の残高が少ないのが問題である。例えば、大型事業を実施するのに、国県の補助や市債を借りることもできるが、市債は返還が始まれば、経常的な経費を増やすことになる。

改善には、長い時間がかかると思うが、税収を少しでも増やし分母を大きくし、施設の維持管理を節減して分子を小さくする努力をしなければならないので、市民に皆さんにも理解いただかなければならない。また、予防事業を行うことで、医療費の上昇を緩やかにするなどの努力も併せて行う必要がある。